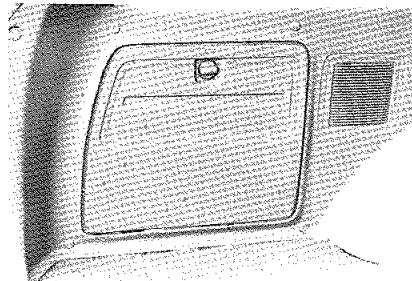


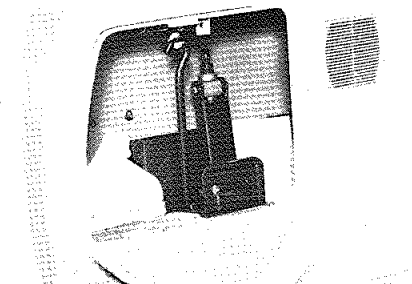
車の簡単な手入れと処置

工具とジャッキ

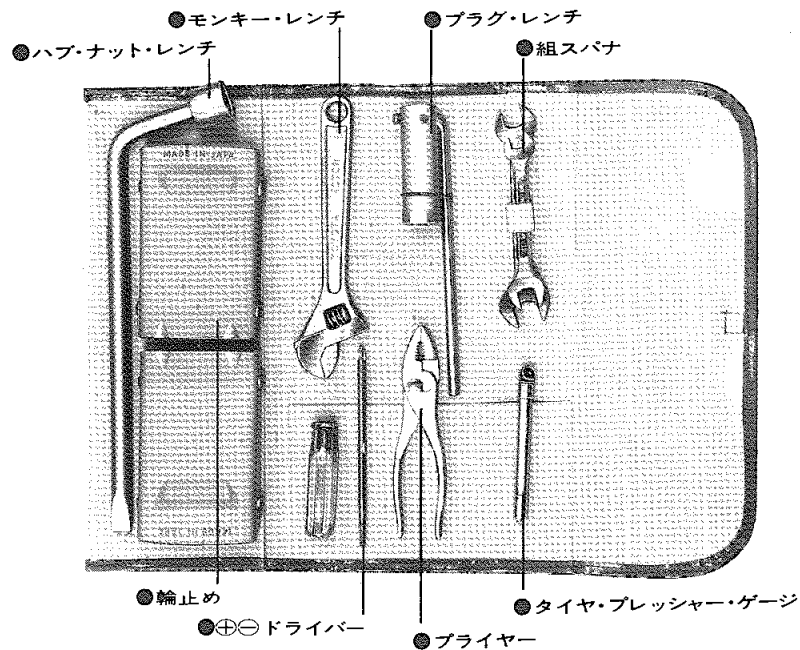
格納位置



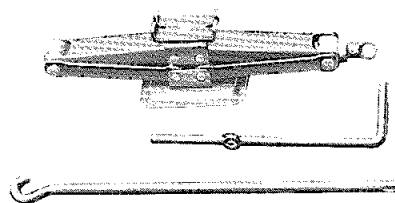
リア・クォータ・トリムの左側のカバー内に格納されています。



<工具>



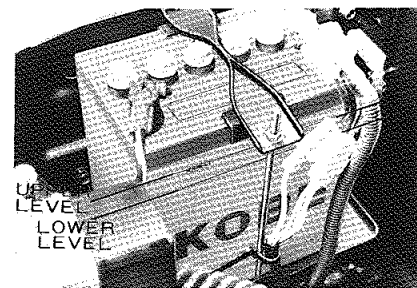
<ジャッキ>



バッテリー液の補給

バッテリーの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ります。

液面が、UPPER LEVELとLOWER LEVELの間にあればよく、少ないときはUPPER LEVELまで蒸留水の補給が必要です。



冷却水の交換

必ずロング・ライフ・クーラントをご使用ください。

キヤッスル・ロング・ライフ・クーラントは、冷却水と不凍液とを兼ねています。四季を通じて使用でき、通常は2年または40,000kmで交換してください。

交換する場合は次の要領で実施してください。

■交換方法

- 1 エンジン・ドレーン・コック、ラジエーター・ドレーン・コックをはずし、冷却水を全部出します。
- 2 水道の水でラジエーター内を洗浄しエンジン・ドレーン・コックとラジエーター・ドレーン・コックを取り付けます。
- 3 ロング・ライフ・クーラントの注入量は、下記の表を参照してください。

凍結防止温度	-15℃まで	-38℃まで	
ロング・ライフ・クーラントの濃度	30%	50%	
参考	冷却水量	16R-J	8.0ℓ

新車時および冷却水交換時、エンジン内に空気が残りしばらくは冷却水の減少が見られますが異常ではありません。

冷却水の補給

通常は補給の必要はありませんがリザーブ・タンクの冷却水がLOW以下の場合には補給が必要です。冷却水を補給する場合はロング・ライフ・クーラントの30%液または50%液を補給してください。

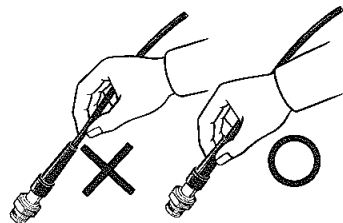
★注意

補給はリザーブ・タンクに行なってください。LOWとFULLのレベルの間に保ってください。

FULL以上は入れないでください。

プラグ・コードおよびスパーク・プラグの取り扱い

- 1 プラグ・コードを取りはずす場合は、キャップ部を持って取りはずしてください。



★注意

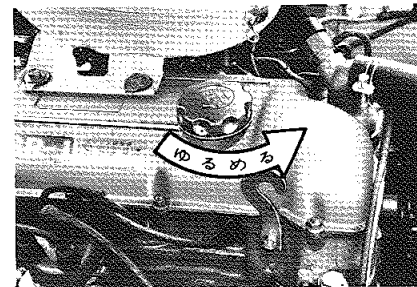
コードの中間を持って引っぱると断線の恐れがあります。

- 2 スパーク・プラグを交換する場合は、指定のものをご使用ください。
(仕様と整備基準値の項目参照)

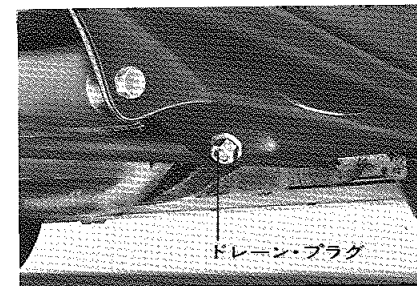
エンジン・オイルの交換

6か月または、5,000kmごとに交換してください。

- 1 フィラー・キャップを取るか、エンジン・オイル・レベル・ゲージを抜きます。



- 2 エンジン・ドレーン・プラグをはずしてオイルを出します。

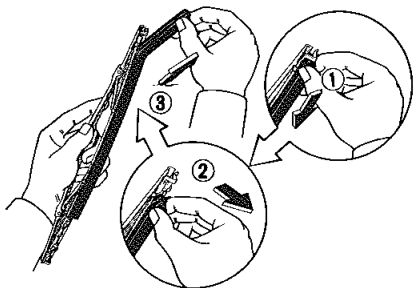


3 エンジン・ドレイン・プラグを取り付け、オイルを注入します。

エンジン・オイルは必ずトヨタ純正キャッスル製品もしくは下記のものをご使用ください。

(トヨタ純正キャッスル製品の項目参照)
API 基準 S C, S D 相当 シングル・グレード・オイルまたは、20W-40

ワイパー・ブレード・ゴムの交換



ワイパーのふきが悪くなったら、ブレード・ゴムを点検し交換してください。ブレード・ゴムの交換は①ゴムの先端を押し②切り欠き孔から③引き出してください。

パンクの処置

車を道路の左端に寄せて

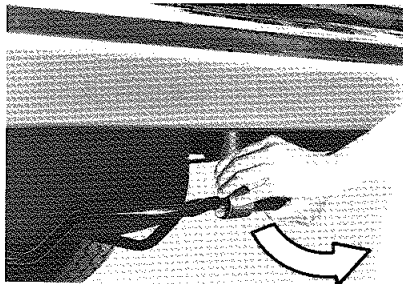
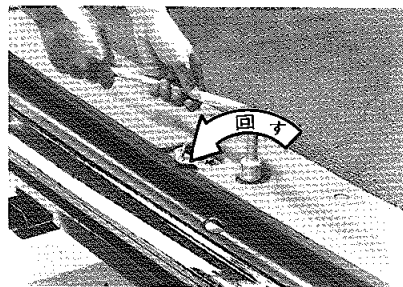
★注意

車を水平な位置にとめます。

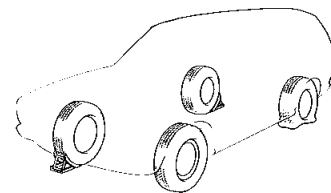
1 工具、ジャッキ、スペア・タイヤを取り出します。

2 スペア・タイヤは床下後部に取り付けてあります。

床上のボルトを左に回してタイヤのささえを下げ少し持ち上げて支柱からはずしタイヤをおろします。



3 輪止めをします。



左側パンク時……右側前後のタイヤの外側に

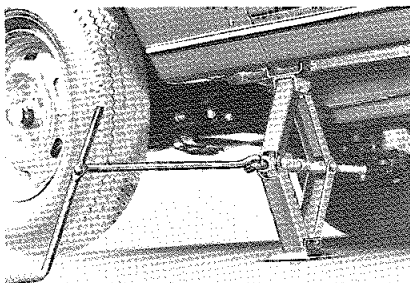
右側パンク時……左側前後のタイヤの外側に

4 ジャッキがはずれたときの危険防止のため、スペア・タイヤをパンクしたタイヤのボデーの下に置きます。

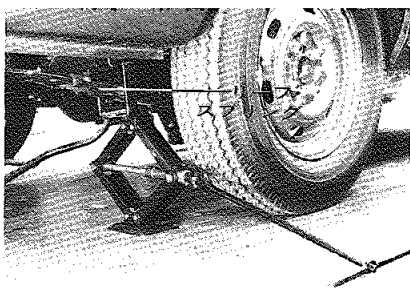
5 ホイール・キャップを取りはずします。ハブ・ナット・レンチを使うとらくにはずれます。直接手をかけて取ると指をけがすることがありますので注意してください。

6 ジャッキをセットします。ジャッキがはずれると大変危険ですので所定の位置（交換するタイヤに近いセット位置）に確実にセットしてください。

ジャッキ・セット位置 フロント側



リヤ側



リーフ・スプリングにジャッキの受けをセットします。

★注意
ジャッキは地面の平らで安定できる所にセットしてください。

7 ハブ・ナットをハブ・ナット・レンチでゆるめます。ナットは手で回る位までゆるめておきます。

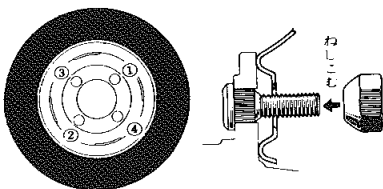
8 タイヤと地面とが少し離れるまでジャッキ・アップします。

★注意

ジャッキ・アップしてからは車の下にもぐらないようにしてください。
万一、ジャッキがはずれると大変危険です。

9 ナットをはずしタイヤを取り替えます。

10 ナットのテーバー部分がホイール穴のシート部に軽くあたり、タイヤがガタつかない程度までナットを締めます。



11 ジャッキをはずし、ナットは図の数字の順序で2～3度にわたりハブ・ナット・レンチを使用して、手でいっぱい締め付けます。

★注意

レンチを足で踏んだりパイプなどを使用して、必要以上に締め付けしないでください。

12 ホイール・キャップを取り付けます。タイヤの空気口にホイール・キャップの穴を合わせることを忘れないようにします。

13 工具、ジャッキを片づけパンクしたタイヤはすぐ修理しておきましょう。

★注意

1. チューブレス・タイヤのパンク修理は、チューブ入りタイヤと修理方法が違いますので確実に修理のできる工場で行なってください。
2. スペア・タイヤの空気圧は規定より少し高めにしておきましょう。
3. タイヤ・キャリアにタイヤを取り付けるとき、タイヤがガタつかないことを確認してください。

タイヤ・チェーン

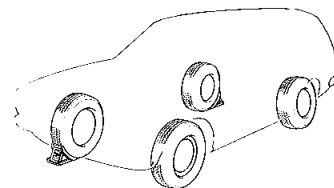
タイヤ・チェーンは後2輪に取り付けます。

★注意

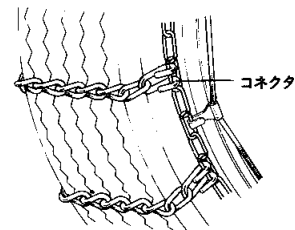
車を水平な位置にとめます。

＜取り付け方＞

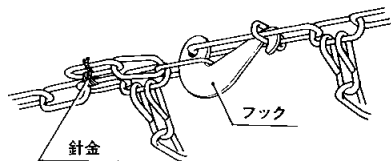
- 1 輪止めをします。
左側チェーン取り付け時…
右側前後のタイヤの外側に
右側チェーン取り付け時…
左側前後のタイヤの外側に



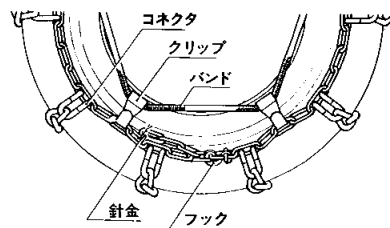
- 2 後輪をジャッキ・アップします。
(ジャッキ・セットのしかたはパンクの処置の項参照)
- 3 コネクタの折り曲げを外にしてタイヤを回しながらチェーンをかぶせます。



- 4 チェーンの両端をいっぱい引っぱって内側から連結します。余ったチェーンは（ボデーに当るのを防止するために）図のように針金で結びます。



- 5 チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンに掛けます。



- 6 ジャッキをおろし輪止めを、はずします。

<取りはずし方>

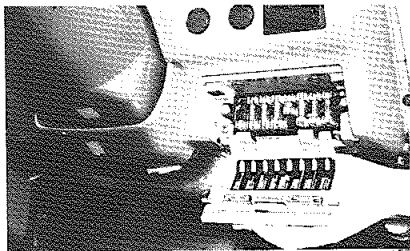
- 1 チェーン・バンドをはずし、針金を取り、フックは内側から先にはずします。
- 2 車を少し動かし、チェーンをとりだします。

★注意

1. タイヤ・チェーンは、車のタイヤ・サイズに合ったものを使用してください。
2. タイヤ・チェーンを装着する場合は、次の速度で走行してください。
雪路、凍結路 30km/h以下
(なお乾燥路面でのタイヤ・チェーンの装着はできるだけ避けてください。)
3. 前輪にはタイヤ・チェーンを装着することはできません。

ヒューズ、ランプ・バルブの交換

〈故障の調べ方〉



計器盤右下部のヒューズ・ボックスのふたにヒューズ容量と主回路名が記入してあります。そのヒューズの受けもっている配線全部が作動しないときはヒューズ切れと考えられます。

1つだけ作動しないときは、ランプ切れかまたは配線に不具合があります。

〈ヒューズの交換〉

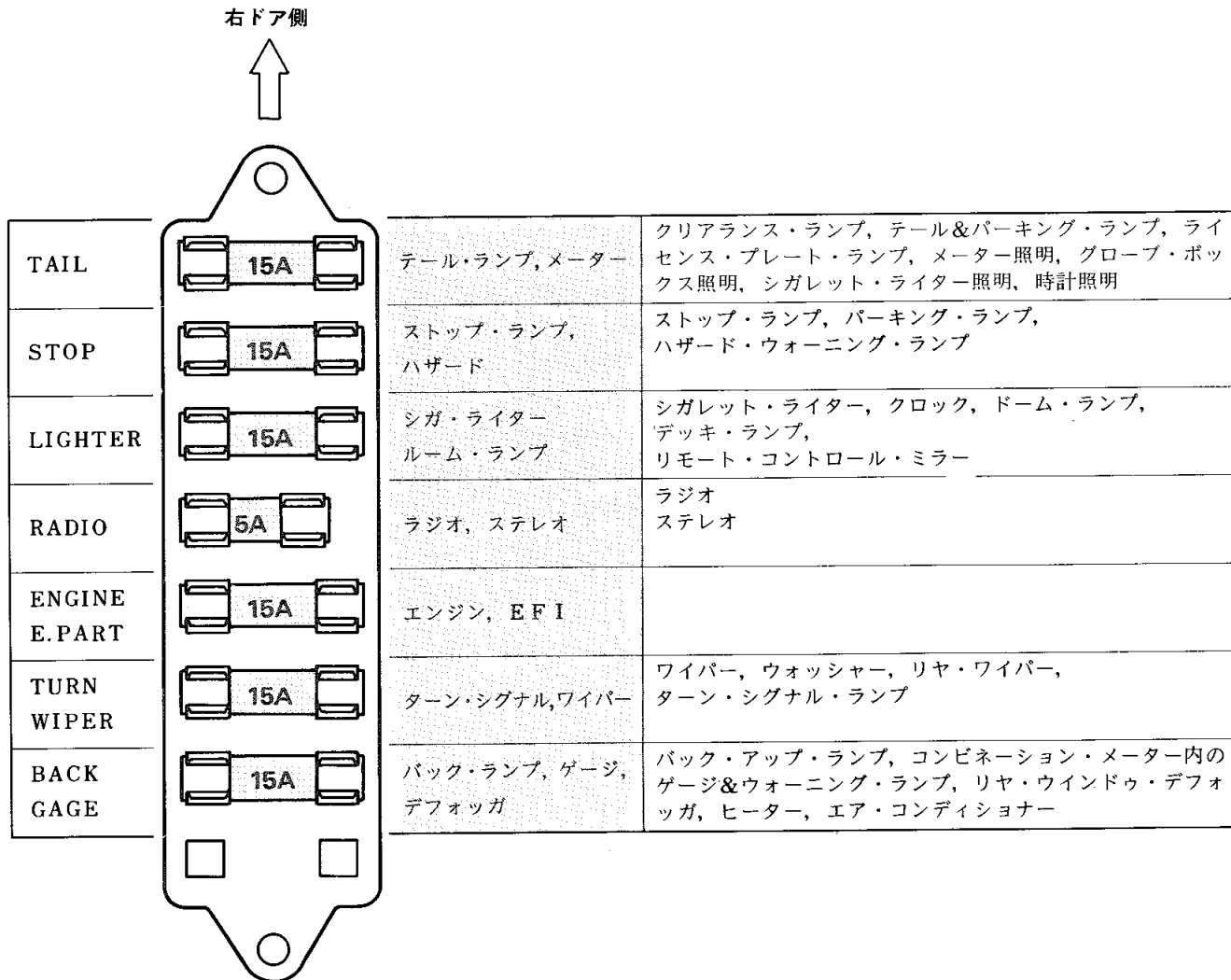
1. ヒューズ・ボックスのふたを取ります。
2. ヒューズをはずします。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換します。

何度もヒューズが切れる場合は、針金、銀紙などを使用しないで、サービス工場での点検を受けてください。

★注意

1. ヒューズが切れた場合は、スペア・ヒューズを使用してください。針金、銀紙などは使用しないでください。
2. 何度もヒューズが切れる場合はサービス工場での点検を受けてください。

■ヒューズ配線図

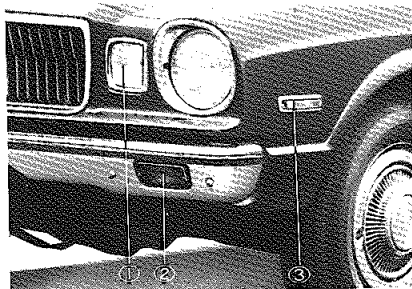


※1. 不具合のある個所は点灯または作動しません。

2. スペア・ヒューズはケース・カバーにスペア・ヒューズ15Aが2本あります。

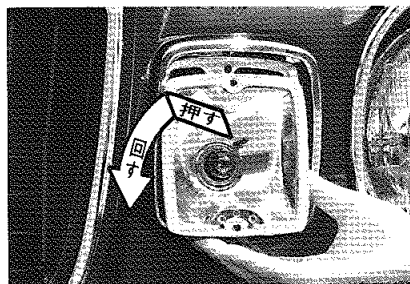
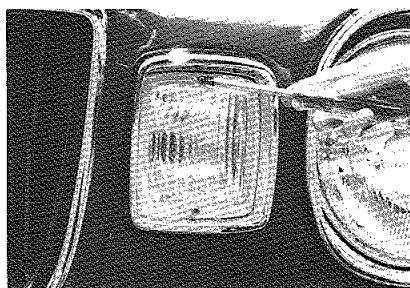
■ランプ・バルブの交換

フロント側



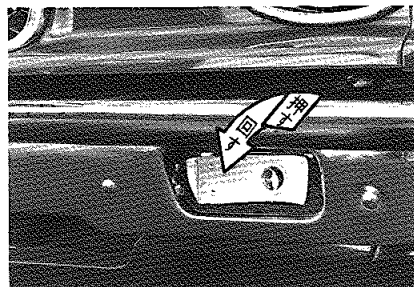
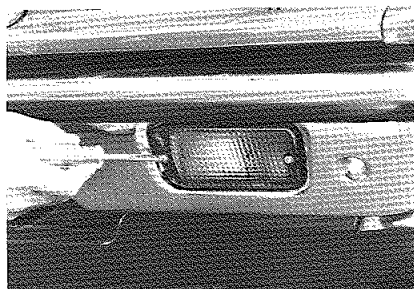
①クリアランス・ランプ &
フロント・パーキング・ランプ

5w



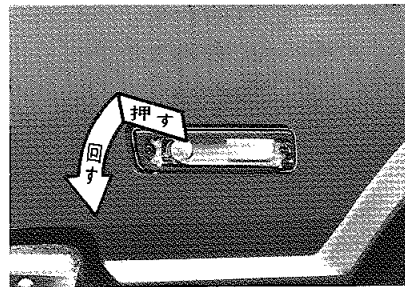
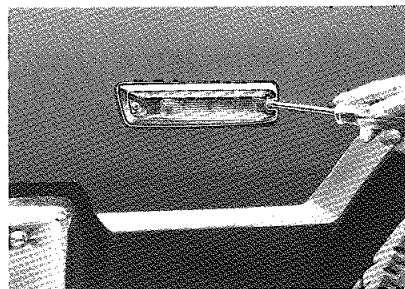
②フロント・ターン・シグナル・ランプ
(ハザード・ウォーニング・ランプ)

23w



③サイド・ターン・シグナル・ランプ
(ハザード・ウォーニング・ランプ)

8w

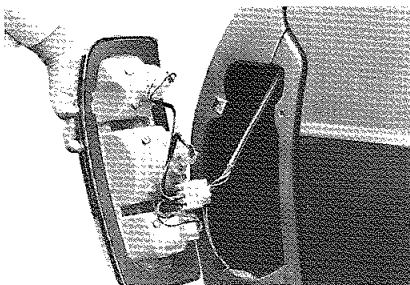
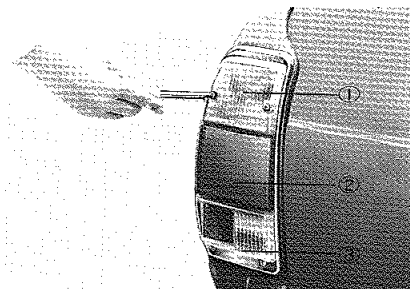


バルブ交換は、レンズ表面のスクリュー
をはずしてレンズを取り、バルブをいっ
ぱい押し込んで左に回してははずします。
バルブをはめるときは、切り欠きを合わ
せていっぱい押し込んで右に回してくだ
さい。

★注意

ソケットおよび接着部のさび・よごれを
とってください。

リヤ側



- ①ターン・シグナル・ランプ
(ハザード・ウォーニング・ランプ)

23w

- ②ストップ&テール&パーキング・ランプ

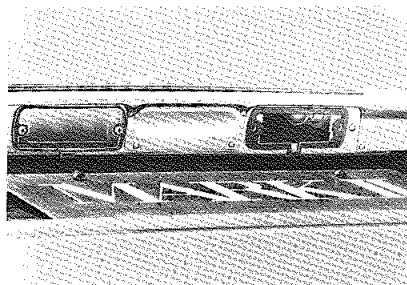
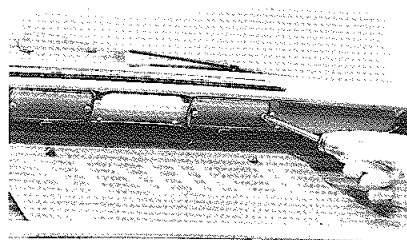
21/5w

- ③バック・アップ・ランプ

23w

バルブの交換は、スクリューを左に回してランプを取りはずします。
ランプ・ソケットを左へ回して取り出しバルブをいっぱい押し込んで左へ回してはずします。はめるときは切り欠きを合わせて押しながら右へ回します。ダブル・フィラメント・バルブはロック・ピンの位置が左右違いますのでご注意ください。

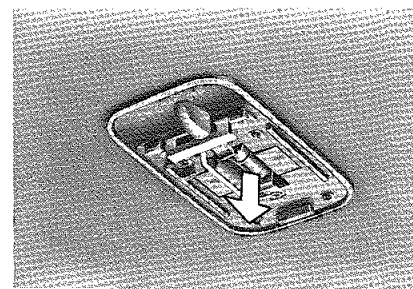
ライセンス・プレート・ランプ



7.5w

カバーのネジ2箇所をはずしてレンズを取り、バルブをいっぱい押し込んで左に回してはずします。

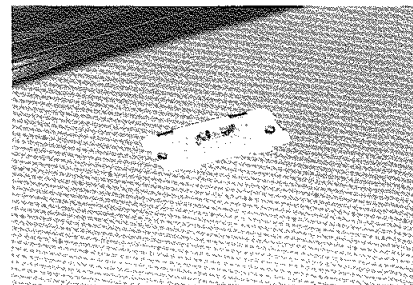
ルーム・ランプ



ルーム・ランプ 10w

バルブの交換は、スイッチをOFFにして、レンズをはずし、バルブを取りはずします。

リヤ・ルーム・ランプ



リヤ・ルーム・ランプ 10w

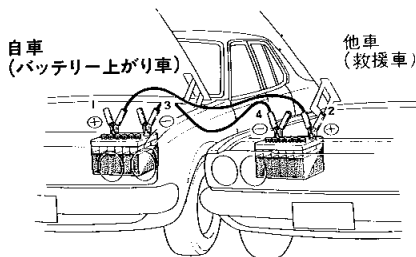
⊙ドライバーでランプ・カバーを取りはずしバルブを取りはずします。

バッテリー上がり の処置

■ブースター・ケーブルによる始動

バッテリー上がりによりエンジン始動ができない場合、ブースター・ケーブルがあれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。作業にあたっては必ず次の手順を守ってください。

1. ブースター・ケーブルを図の順序に接続します。



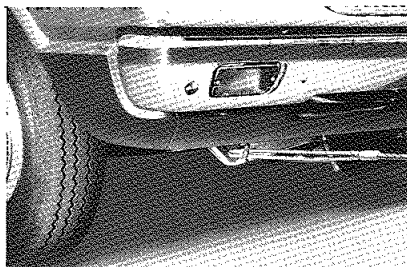
2. 接続後、他車のエンジンを始動させ回転数を少し高目にしておきます。
3. 自車のエンジンが始動したら、取り付けたときの逆手順でブースター・ケーブルを取りはずします。
バッテリーはすぐにガソリン・スタンドやサービス工場で完全充電してください。

★注意

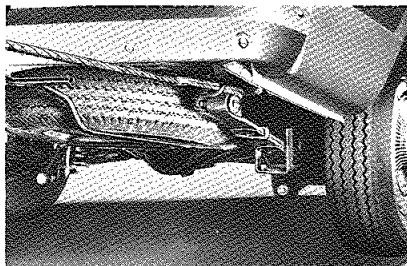
1. バッテリーは自車と同じ電圧(12V)の車を使用してください。
2. ケーブル接続の際には、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
3. ケーブルが冷却ファンにまき込まれないように取り付けてください。

けん引について

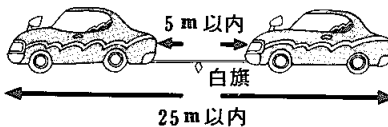
フロント



リヤ



<けん引のしかた>



けん引車は急発進、急停車をしないようにし、けん引される車はけん引車のストップ・ランプに注意し、常にロープをたるませないように気をつけましょう。

★注意

1. けん引中でもキーはLOCKの位置まで回さないでください。
ハンドルが切れなくなり危険です。
2. エンジンが停止していると、いつもよりブレーキの効きが悪くなります。
できる限り、エンジンを始動してけん引してください。
3. トランスミッション内部に故障があり、動かすと不具合があると思われるときは、後輪をつり上げるかプロペラ・シャフトを取りはずしてからけん引してください。

オートマチック・トランスミッション車の場合
後の車輪をつり上げるか、プロペラ・シャフトをはずしてからけん引してください。

外装の手入れ

車を美しく保つには、日頃のお肌(塗装)の手入れが必要です。

ボデーのはこりは柔らかい布か毛ばたきでとりましょう。

塗装面がよごれたときは、なるべく早く洗車をし、よごれのひどいときはカー・シャンプーを使用しましょう。

塩分や凍結防止剤が付着したときは早く洗車しましょう。ワックスがけはボデーにツヤのなくなる前に適時行なってください。

〈洗車方法〉

1 下まわりを洗います。

2 十分水をかけながらスポンジかセーム皮でよごれを洗い落します。

3 よごれのひどいときは、ボデー温度が下ってからカー・シャンプーを使用して洗います。

4 塗面に、はん点が残らないよう十分水分をふきとります。

〈ワックスがけ〉

1 1か月に1度または水のはじきが悪くなったときに行なってください。

2 ワックスがけはボデーの温度が体温以下のとき行なってください。

3 使用方法是ワックスの容器に記載されていますから、よく読んでお使いください。

4 ワックスは、トヨタ純正品で下記の商品のものをお使いください。

オートワックス・101

オートワックス・301

オートワックス・スピーディ・101

★注意

1. ワックスの中にコンパウンド(細かい砂)のはいっていないものをご使用ください。
(コンパウンドのはいっているワックスを使用すると塗装の表面に細かい傷が残ります。)
2. エンジン・ルーム内の電気系統に水をかけないように注意してください。
エンジン始動不良の原因となります。